農業情報誌　第２号（通巻第122号）令和５年３月

晴れたらいいね

「百万石の極み」の認定

「百万石の極み」の認定を受けた生産者（石川県庁）

「百万石の極み」ロゴマーク

百万石の極みに認定されたことを示します。「百」に農林水産物の豊かな実りを見立てたデザインです。

百万石の極み

目次

特集
ブランド農林水産物を「百万石の極み」に認定　P2

現地ルポ
石川、県央、奥能登　P4

中央普及支援センターだより　P5

行政情報　P6

いしかわ農業振興協議会だより　P8

いしかわ農業総合支援機構だより　P9

研究ノート
農林総合研究センター　畜産試験場　P10

石川県農林水産部

特集 ブランド農林水産物を「百万石の極み」に認定

【農業政策課】

石川県には量は多くないものの、優れた特長を有する農林水産物が数多く生産されています。２０２０（令和２）年には、こうした農林水産物のブランド価値の向上を図り、農林水産業の発展につなげていくため、全国初となる条例（石川県の特色ある農林水産物を創り育てるブランド化の推進に関する条例）を制定しました。

そして昨年８月には、同条例に基づき、ルビーロマンや能登牛、加賀しずくなど、県産ブランド農林水産物としてふさわしい２０品目を「百万石の極み」として認定しました。

今回の認定を契機に、さらなる認知度向上に向けた取り組みを強化して消費拡大や本県の魅力向上につなげるため、「百万石の極み」を中心とした旬の県産農林水産物の魅力を実感していただけるよう、県内外において、試食・販売イベントや「百万石の極み」を使った料理やスイーツを味わえるフェア等を実施しました。

今後も、さまざまな機会を通じて、県産ブランド農林水産物「百万石の極み」の魅力を発信し、ブランド化を推進していきます。

知事によるルビーロマンのトップセールス
（東京都中央卸売市場大田市場）

多くの来場者でにぎわった「百万石の極みフェア」
（しいのき迎賓館）

「百万石の極み」認定品目（50 音順）

エアリーフローラ

加賀しずく

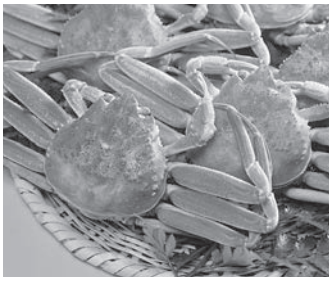
加賀太きゅうり

加賀丸いも

加賀れんこん

加能ガニ

源助だいこん


香箱ガニ

五郎島金時

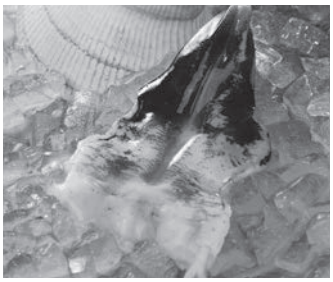
高松紋平柿

能登牛

能登志賀ころ柿

能登大納言小豆

のとてまり


能登とり貝

ひゃくまん穀

百万石乃白

ルビーロマン

輪島海女採りあわび

輪島海女採りさざえ

現地ルポ

需要に応じた高品質な酒米づくりに向けて現地研修会を開催しました　石川発

白山市山島地区は酒米生産が盛んで、令和３年は県下最大の約 45ha（県内作付面積の４分の１程度）が作付けされています。酒米は日本酒の醸造に適した特徴を持つお米であり、品質の高位安定化が求められています。

そこで、石川農林総合事務所では、産地一丸となった高品質な酒米づくりに向け、昨年６月 28 日に酒米生産者を集めた現地研修会を開催し、栽培管理のポイント説明や意見交換を行い、生産技術の向上を図りました。

また、県のブランド品種である「百万石乃白」については、７月 13 日に南加賀地区・石川地区合同の現地巡回を開催し、酒造メーカーにも参加いただきました。

当日は、８カ所のほ場を巡回し、出穂期の予測に基づく今後の栽培管理等の指導や、酒造メーカーと生産者の意見交換を通じて、実需者が求める酒米品質について学ぶ場を提供しました。

当事務所では、今後も、酒米生産者へのタイムリーな栽培管理情報の提供や生産者と実需者との交流機会の創出により、需要に応じた高品質な酒米づくりを支援していきます。

南加賀地区・石川地区合同「百万石乃白」現地巡回

酪農家が取り組む現場カイゼン活動の支援　県央発

県央農林総合事務所では、農作業の効率化を図ろうとする酪農家を支援するため、河北潟干拓地酪農団地内の酪農家を対象に、トヨタ自動車株式会社・いしかわ農業総合支援機構・中央普及支援センターと連携して、令和４年から現場カイゼン活動の支援を行っています。

最初に現場カイゼン活動の基本である４Ｓ活動（整理・整頓・清掃・清潔）の定着に向け、①牛舎内の必要なものと不要なものを分類し、不要なものを処分する②工具等の置き場を分かりやすくして工具等を探す時間を減らす③牛舎内で発生するゴミの廃棄方法（場所、分類、頻度等）をルール化し、従業員間で共有することで取組の定着を図りました。

また、牛舎内の作業安全を図るため、定期的に作業動線や設備等の点検を行い、作業上の危険が予測される場所については早急に修繕を行いました。

今後は搾乳作業における一連の作業工程を点検して作業上のムダな動きなどを改善する取組を実施することとしており、引き続き、関係機関と連携し、現場カイゼン活動の定着に向けた活動を支援していきます。

棚の整理状況（前と後）

ミニトマトの安定出荷に向けた「青枯病」対策の取組　奥能登発

奥能登農林総合事務所管内のミニトマト産地は、県内最大の産地として市場から高い評価を得ていますが、近年は出荷量が減少傾向にあり、出荷市場からは出荷量の安定が求められています。

出荷量減少の原因の一つとして「青枯病」が問題となっており、産地全体の２割を超える面積で発生しています。

奥能登農林総合事務所では、ミニトマトの安定出荷に向けて、青枯病に強い新しい台木の選定や、土壌の排水対策の強化による青枯病の被害軽減に取り組んでいます。

＜青枯病に強い新しい台木の選定＞

青枯病に強い台木を現地で栽培試験したところ、青枯病の発生は見られず、収量や品質も従来の台木とほぼ変わらないことが分かりました。

今後は、青枯病が多発しているほ場を中心に、新しい台木への切り替えを進めていくこととしています。

＜排水対策の強化＞

青枯病の原因となる根傷みを起こさないよう、排水溝の設置など排水対策の徹底について、講習会や資料配布、個別巡回を通じて指導した結果、生産者から「大雨で滞水したので青枯病の発生に気を付けなければいけない」といった声が聞かれるなど、排水対策の重要性について生産者の認識が高まってきています。

難防除病害である青枯病は、完全に防ぐことは困難な病気ですが、当事務所では、産地の実情に応じた効果的な防除対策の指導を継続し、ミニトマト産地の安定出荷に向けた取組を支援していきます。

講習会の様子

中央普及支援センターだより

「百万石乃白」の生産安定と需要拡大に向けた交流会を主催

県が育成した酒米品種「百万石乃白」は、大粒で大吟醸酒の製造に適した加工適性を備えており、県内の酒蔵関係者等から高い評価を得ています。

「百万石乃白」を原料とした大吟醸酒の一般販売は令和２年から開始され、消費者からも好評を博しています。今後の需要拡大には酒蔵の求める酒米品質を的確に把握し、需要に応じた品質の酒米を安定供給することが必要となっています。

そこで、当センターが中心となって、百万石乃白研究会会員（生産者）と酒蔵代表者や杜氏が一堂に会して意見交換を行う交流会を年１～２回開催しています。交流会では酒蔵から「大粒でバラつきの少ない酒米がほしい」「品質の情報が酒の仕込み前にあると助かる」、会員からは「県外産米と比べた品質評価、酒需要の見通しはどうか」など活発な意見が交わされ、栽培技術対策の検討や生産目標設定などに役立てられています。

百万石乃白は令和４年８月に「百万石の極み」認定を受け、今後の需要増加が期待されます。生産者と酒蔵が一体となった取組みをさらに進め、高品質な酒米生産と需要拡大を目指していきます。

交流会の様子

●いしかわ里山振興ファンド公募事業について

里山振興室

石川県が平成 23 年に地元金融機関とともに創設した「いしかわ里山振興ファンド」は、里山里海の地域資源を活用した生業の創出など里山里海地域の活性化につながる取組を支援しています。

公募事業への申請についてご相談がありましたら、お気軽に最寄りの農林総合事務所または里山振興室までご連絡ください。

また、令和５年度公募事業説明会（オンライン）を３月 10 日、４月 14 日の２回開催しますので、申請を検討されている方は下記 URL よりお申込みください。

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/satoyama/fund/r5koubo.html
「いしかわ里山振興ファンド」で検索

助成メニュー

里山里海の地域資源を活用した生業の創出

●新商品・新サービスの開発支援
●新商品・新サービスの開発に係る事前調査支援
●開発した商品・サービスの改良・販路拡大支援

チャレンジ精神旺盛な「生業の担い手」の参入支援

●里山里海の地域資源を活用した生業の担い手を目指す地域の若者や移住者に対し、奨励金を支給

里山里海地域の振興

●里山里海地域を元気にするイベント支援

スローツーリズムの推進

●多様な滞在メニューの開発支援
●地域の合意形成に向けた支援
●モデル的な取組への総合支援

いしかわ里山振興ファンドで支援した商品例

これまでに 297 件の事業を採択し、里山里海の地域資源を活用した新商品開発等を支援

オーガニック能登そば
（金沢大地）

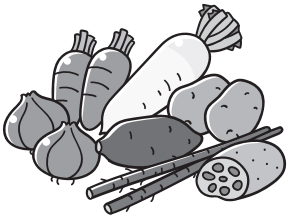
能登産ブルーベリーのソース
（ひらみゆき農園）

大浜大豆の木桶醸造醤油
（谷川醸造）

【お問い合わせ先】石川県里山振興室生業づくりグループ（TEL　０７６－２２５－１６３１）

●園芸産地継承について

生産流通課



皆さんは「産地継承」という言葉をご存知ですか？
同一の品目を共同で出荷・販売するために集まった「産地」が、新たな担い手の確保から定着に至るまでの一連の活動を通じて、これまで築いてきた「信頼」や「ブランド力」を後世に「継承」することを指します。

近年、園芸産地の多くで、高齢化が進み、後継者の確保が深刻な問題となっています。このままでは、産地規模の縮小により集出荷場などの共同利用施設の運営が困難になったり、ブランド力の低下から販売単価が下るなど、産地の存続が危ぶまれています。このため、外部からの新規参入者等を受け入れる新たな担い手を確保する対策が急務となっています。

一方、就農希望者の中には、農地の確保や技術習得の難しさ、産地に馴染めないなどの理由から就農を断念する例も少なくありません。

このようなミスマッチを解消し、新たな担い手として定着させるためには、産地の皆さんが主体となって就農希望者を受け入れ、育成する取組みが必要です。

県では、このような産地の取組みを応援するため、令和４年５月に「産地再興プロジェクト」を立ち上げました。

〈構成メンバー〉　・県（農林総合事務所、中央普及支援センター、県庁関係課）
・ＪＡグループ石川営農戦略室
・いしかわ農業総合支援機構

本プロジェクトでは、①重点対象産地における取組計画の策定、②産地の担い手確保目標や育成スキームなどを明確化した産地戦略の策定支援、③補助事業等を活用した産地戦略の実現に向けたサポート、④いしかわ耕稼塾との連携による新規希望者の情報提供等を実施しています。

新たな担い手を確保・育成するための「産地継承」の取組みは、産地内の合意形成に始まり、受入体制の整備、新規参入者の営農定着に至るまで時間を要するものですが、県としては、今後とも園芸産地の維持・発展に向け、関係機関と連携のもと、産地の取組みを支援していくこととしています。

いしかわ農業振興協議会だより

令和４年度いしかわ農業振興協議会経営改善及び地域農業振興表彰受賞者決定！

令和５年２月 15 日、県農林総合研究センターにおいて、令和４年度いしかわ農業振興協議会研究発表大会が開催されました。大会では、今年度の「いしかわ農業振興協議会経営改善及び地域農業振興表彰受賞者」が発表され、各受賞者が自身の経営や取り組みを紹介しました。

[経営改善部門受賞者の概要]

【優秀賞】目指すは 200ha！効率的な農地利用と新技術の導入により省力化を実現する農業法人 株式会社あぐりー石　　代表取締役　新田　義宣氏（白山市福新町）	
【経営類型・規模】	水稲 61.2ha、大豆 9.9ha、大麦 3.8ha、野菜・花き 0.5ha
【労働力の構成】	常時従事者４人、常時雇用２人
【経営の特徴】	白山市石川地区において、担い手間での農地集積や土地利用の調整を行いながら経営規模を拡大し、水稲を中心に大麦・大豆を組み合わせた２年３作体系により、延べ 75ha を作付けする大規模経営体である。 積極的に牽引式の作業機械を活用するほか、スリップローラーシーダーを大麦・大豆に加え、水稲の直播栽培にも汎用的に活用するなど徹底した省力化や効率化に努め、大規模経営を実現している。

【優秀賞】奥能登地域に根差した野菜専作経営を継承・発展 上田農園　　代表　上田　拓郎氏（輪島市房田町）	
【経営類型・規模】	なす科果菜類 0.5ha、うり科果菜類 0.2ha、その他野菜 0.3ha、野菜苗 0.02ha
【労働力の構成】	常時従事者２人、臨時雇用延べ 45 人日
【経営の特徴】	大消費地から遠隔地にある奥能登地域において両親が築いた野菜専作経営を継承し、地元スーパーやＪＡ直売所に加え、レストラン等飲食店への販路を新規開拓し、地域内での販売ルートを確保し経営を軌道にのせている。 拓郎氏が就農した平成 14 年に、輪島市第一号となる家族経営協定を締結し、働きやすい環境を整えるとともに、平成 29 年に経営全般を任されてからも、家族の労働力に配慮した経営部門の見直しを進め、働き方改革による持続可能な経営を実践している。

[地域農業振興部門受賞者の概要]

【優秀賞】収益性の高い水田農業を実践し地域に貢献する集落営農法人 農事組合法人千耕　　代表理事　北村　進二氏（小松市千代町）	
【経営類型・規模】	水稲 28.8ha、大麦 6.3ha、大豆 6.1ha、野菜・花き類 0.9ha、作業受託 2.7ha
【労働力の構成】	常時従事者３人、臨時雇用延べ 369 人日
【取り組みの特徴】	「農地を守り農業を通じて地域に貢献」という経営理念を掲げ、兼業農家の任意組織を平成 29 年に法人化。水稲の直播栽培に大麦・大豆を加えた２年３作のほか、高収益作物としてたまねぎや加工用トマト等を導入し、米価下落に対応した水田フル活用による収益性の高い複合経営を実現している。 農地地図管理アプリの活用による作業の効率化などムダを省いた経営管理を実践するとともに、女性や高齢者の適切な人員配置により、雇用機会の確保と利益還元に努めている。

【優秀賞】県内園芸産地のトップランナーとして西瓜生産と誇りを次代へ継承 ＪＡ金沢市砂丘地集出荷場西瓜部会　　部会長　清水　大志氏（金沢市下安原町）	
【経営類型・規模】	すいか 105.2ha
【労働力の構成】	部会員数 58 人
【取り組みの特徴】	当生産部会は、県内園芸産地を牽引する存在であり、担い手不足が問題となっている園芸産地が多い中で、後継者が多く育成されている。 マーケットインの視点を基本に“おいしいすいかを消費者に届ける”ことを部会の理念としており、販売計画に基づく生産計画の策定及び緻密な栽培技術の組み立てにより、精度の高い計画出荷を行い、県内外の出荷市場からの高い信頼を得るとともに、儲かるすいか生産を実現している。

【優秀賞】地域の人やモノを総動員し、６次産業化を実践する集落営農法人 農事組合法人能登やまびこ　　代表理事　山口　勝氏（中能登町春木）	
【経営類型・規模】	水稲 30.6ha、大麦 1.1ha、小麦 1.0ha、そば・園芸品目 4.9ha
【労働力の構成】	常時従事者３人、常時雇用２人、臨時雇用 延べ 329 人日
【取り組みの特徴】	地域住民の話し合いに基づき、地権者の合意形成と農地利用調整を行う１階部分と、営農を実践する２階部分に機能を分けた県内初の「２階建て方式」による集落営農を実践し、地域の農業・農村を守っている。 自社製品や地域内の女性･高齢者が生産する能登野菜を直売するほか、他業種との連携によりジェラート等を商品開発し、食品加工にも積極的に取り組んでいる。

食と本のコラボ‘いしかわビブリオマルシェ’を初開催

いしかわ農業総合支援機構だより

昨年７月 16 日に新しく開館した石川県立図書館において「食と本のコラボ　いしかわビブリオマルシェ」を初めて開催しました。

このマルシェでは、県内農業者や JA による野菜や農産加工品の販売のほか、季節の旬の食材をテーマ（8 月はぶどう、11 月はれんこん）にした親子料理教室の開催や関係する図書の紹介、館内に併設されているカフェでのメニュー提供を行いました。

１回目の８月 27 日（土）、28 日（日）は夏休み最後の土日で、図書館が開館して間もないということもあり、多くのお客さんで賑わいました。販売する食材が軒並み売り切れとなり、出展者が追加で食材を取りに行かなければならないほどの大盛況でした。

２回目の 11 月 26 日（土）、27 日（日）は晩秋で時雨模様のスタートでしたが、日曜日には晴天となり、お客さんも徐々に増えました。農家のキッチンカーも登場し、屋内広場では商品として販売できないれんこんを使ったスタンプコーナーを設け、多くの方に楽しんでいただくことができました。

親子料理教室は、８月、11 月ともに大好評で応募が殺到しました。「家では子供と料理する余裕がないのでとても楽しかった」、「簡単に調理できるレシピなので早速家でも作ってみます」などの感想をいただきました。

来年度も開催する予定としておりますので、みなさまのご出店をお待ちしております！

マルシェの様子（８月）

農家のキッチンカーも出展（11 月）

親子料理教室の様子

人気だったれんこんスタンプ

肉用牛の肥育中後期における粗飼料給与体系の確立

農林総合研究センター　畜産試験場 資源安全部　高畠　咲季

1. 背景・目的

肥育農家では肥育中期（15 ～ 22 ヶ月齢）に飼料中のビタミンＡを制限して脂肪交雑を高める技術が求められます。そのため、粗飼料にはβ - カロテン※ 1 含量が少ない稲わら等が用いられますが、良質な国産稲わらは確保が難しい状況です。また、肥育後期（23 ヶ月齢～出荷）には、食い止まりを防止するために良質な粗飼料を給与することが求められます。

そこで、今回は肥育中期から後期の黒和種去勢牛を対象に、入手が容易な稲 WCS ※ 2 や発酵バガス※ 3 を用いた粗飼料給与体系について検討しましたので、その結果について報告します。

※1　β - カロテン：植物に含まれる色素。体内でビタミンＡに変換される。
※2 稲 WCS（ホールクロップサイレージ）：稲の穂や茎を刈り取り発酵させた飼料。
※3 発酵バガス：サトウキビ粕に糖蜜を加えて発酵させた飼料（写真）。

2. 技術のポイント

発酵バガスはβ - カロテン含量が低く、肥育中期にも給与することができます。また、糖蜜を添加し発酵させているため、牛の嗜好性も高いとされています。

今回の試験では、肥育中期に稲わらのみ、肥育後期に稲 WCS のみを給与する対照区と、肥育中期には稲わらの一部を発酵バガスに置き換え、肥育後期には稲 WCS に発酵バガスを添加して給与する試験区を設定し、飼料摂取量や枝肉成績、肉質等について調査しました（表 1）。

表 1. 給与粗飼料名および給与量（乾物 kg/ 日）

肥育ステージ	対照区		試験区	
	飼料名	給与量	飼料名	給与量
肥育中期（15 ～ 22 ヶ月齢）	稲わら	1.5	稲わら	0.5
			発酵バガス	1
肥育後期（23 ～ 26 ヶ月齢）	稲 WCS	1.2	稲 WCS	1.2
			発酵バガス	0.5

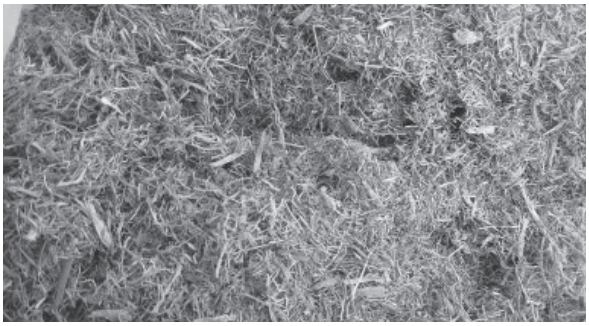


写真 . 発酵バガス

（1）飼料摂取量

試験区は対照区と比較して、粗飼料給与量に対する摂取割合が増加しました。特に肥育後期において、対照区では摂取割合が 69.9%（乾物摂取量 0.84kg）に留まりましたが、試験区では 84.3%（乾物摂取量 1.46kg）と有意に高くなりました（図 1）。また、濃厚飼料摂取量では両区に差は見られませんでした。

（2）枝肉成績および肉質

枝肉成績については両区とも同程度でした（表 2）。肉質の面では、せん断力価※ 4 および脂肪融点※5で試験区が対照区よりも有意に低値となりました（図 2,3）。

※4 せん断力価：噛み切りやすさを示す指標。低値であるほど柔らかいとされる。

※5 脂肪融点：脂肪が溶け出す温度。低値であるほど口どけが良いとされる。

3. 成果の活用と今後の取組み

・発酵バガスは肥育中期における稲わらの一部代替飼料および肥育後期の添加飼料として利用が可能であると考えられます。また、発酵バガスの給与が肉質の向上に寄与する可能性が示唆されました。

・発酵バガスはβ - カロテン含量が低いため、肥育中期の牛ではビタミンA欠乏が懸念されます。給与量は 0.5 ～ 1.0kg とし、牛の健康状態を確認しながら給与する必要があります。

・今後も稲わらの確保が難しい状況が続くと想定されることから、肥育中期における稲 WCS と発酵バガスを利用した粗飼料給与体系について検討していきます。

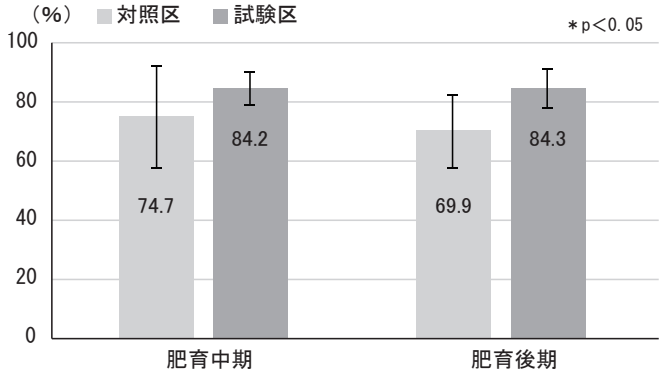


図 1. 粗飼料摂取割合（摂取量 / 給与量）

表 2. 枝肉成績

	対照区			試験区		
出荷月齢（ヶ月齢）	26.5	±	0.6	25.8	±	0.5
枝肉重量（kg）	470.6	±	27.0	457.6	±	69.8
歩留基準値（%）	74.3	±	1.9	75.0	±	2.6
肉質等級	4.8	±	0.4	4.4	±	0.5
オレイン酸（%）	55.5	±	0.5	55.7	±	3.5

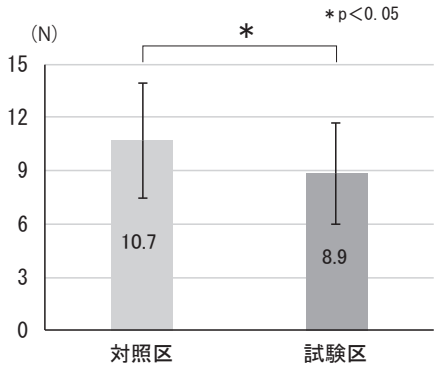


図 2. せん断力価

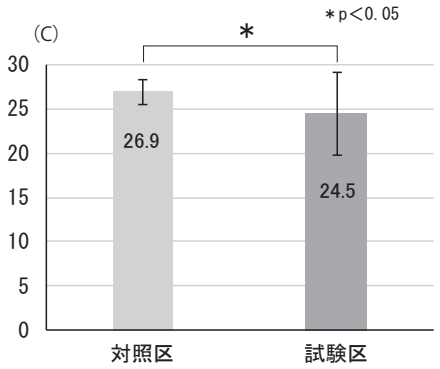


図 3. 脂肪融点

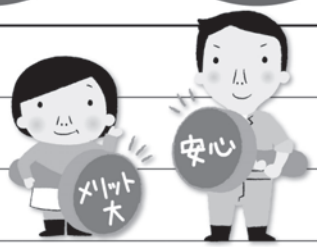
農業者年金

老後の生活を安心サポート！

3つの要件を満たせば、どなたでも加入できます！

- 60歳未満
- 国民年金第1号被保険者
- 年間60日以上農業従事

特徴1	少子高齢時代に強い年金です
特徴2	農業者なら広く加入できます
特徴3	保険料額は自由に決められます
特徴4	一定の要件を満たせば、保険料の国庫補助があります
特徴5	税制面で大きな優遇を受けられます
特徴6	農業者年金は終身年金です



年間60日以上農業従事する60歳以上65歳未満の国民年金の任意加入者も加入できます

より詳しい農業者年金のお問い合わせは

一般社団法人 石川県農業会議
TEL 076－240－0540(代)

石川県農業協同組合中央会
TEL 076－240－5210

またはお住まいの市役所、町役場の農業委員会、ＪＡ各支店までお気軽にご連絡ください。

令和４年度　農業情報誌「晴れたらいいね」第２号（通巻１２２号）

ご意見・ご感想をお寄せください（ＨＰからも受け付けています）

令和５年３月発行　発行者　石川県農林水産部農業政策課

TEL.076-225-1661　FAX.076-225-1618
メールアドレス e210100@pref.ishikawa.lg.jp

ＨＰはこちら
https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousei/suisin/haretaraiine.html